

第 12 回 大橋川改修事業に係る環境モニタリング協議会 議事録

日 時：平成31年2月27日（水） 14：00～15：30

場 所：松江勤労者総合福祉センター 松江テルサ テルサホール B・C

■開会挨拶

開催にあたり、国土交通省中国地方整備局出雲河川事務所長より挨拶。

■委員紹介

協議会委員の紹介（委員紹介は、出席者名簿及び席次表により各委員の紹介とした。）

■会長挨拶

- 昨年の西日本豪雨災害では、死者が 200 名を超え非常に大きな爪あとを残した。平成で最も大きな豪雨災害でなかったかと思う。
- 昭和 47 年の山陰豪雨災害では梅雨前線の影響により 3 日間で約 400mm の雨量となったと思う。西日本豪雨災害は山陰豪雨より 2 割程度雨量が多いように思う。50 年前に生じた豪雨とほぼ同じ豪雨が昨年生じていることを頭に置いていただきたい。
- 災害立国である国土の保全について、環境を乱さないような形で河川の安全度を増していくためにどうしたらよいかということを知恵を出して議論していただくとうれしい。

■今後の環境保全措置について

※説明資料：資料－2

事務局より今後の環境保全措置について説明。

【倉田 委員】

- ヨシは下流右岸で一番消失が大きいと思うが、消失するヨシの半分近くが下流から中の島に移動する計画になっていると思う。大橋川両岸が候補地となっていることからできるだけ両側にあったほうが良いと思う。コアマモについては下流右岸で現状より増えることとなっていることから、下流右岸でもコアマモとヨシをセットで移植できないか、可能な工法で検討して欲しい。

【事務局】

- ◆下流右岸については河道の形状等からヨシの創出面積は確保できない計画である。今後の詳細設計で可能な所は検討していきたい。

【倉田 委員】

- コアマモの場所は確保できてもヨシの場所は確保できない技術的な理由は何か。

【事務局】

- ◆ヨシやコアマモのそれぞれの移植基盤高さが少し違うため、計画の河道の形状に合わせ、安全に洪水を流下させるには移植帯を作れないところもあるためである。

【北村 委員】

- 大橋川沿川では酸性硫酸塩土壌の露出が懸念されるが、掘削残土はどのような所に使われる予定か。

【事務局】

- ◆残土の利用については検討していく必要がある。コスト縮減を念頭に、大橋川の築堤材料など可能な範囲で活用していきたい。
- ◆今後中の島でそのような土壌が出るか確認する必要がある。

【北村 委員】

- サンプリング後、ある程度期間を経てから酸性を示す傾向がある。パイライト (FeS₂) の存在状況をサンプリングで確かめるとともに、文献等も確認するのが良いと思う。

【事務局】

- ◆参考にして、今後確認させて頂きたい。

【清家 委員】

- ヘドロ状のものを持ち上げたときに、それが酸化されて硫酸イオンに変化し酸性を示すと思う。この場所はそこまで還元的になっていないので、心配するほどではないと思うが、泥の状態やパイライトの含有量は検証しておく必要があると思う。

【道上 会長】

- 将来的に不足するヨシ 15,700m² についてはどう考えているか。

【事務局】

- 中の島北岸で 16,000m² ヨシの基盤を整備することで全体の収支は合うと考えている。

【道上 会長】

- 面積だけ合わすのでは本当はまずいが、面積だけでもある程度見通しを立てておかないと進みにくいので、将来的にどうするのか計画としてはっきり示すこと。

【事務局】

- 詳細設計を実施する上で現地をよく見て面積が確保できるようなことも考えたり、今後のモニタリング調査なども見ながら実施していく必要があると思っている。

【中村 委員】

- 剣先川の狭窄部を取ったほうがいいのではないかと考えており、別の機会が良いのでその影響について説明してほしい。良い影響もあるかもしれない。

【事務局】

- ◆ 下流への水位上昇や通過流量増といった水害リスクの観点で残している。

【梶川 委員】

- コアマモを移植する場所をつくるプロセスを教えて欲しい。河道の拡幅や狭窄部の掘削により流速がどのようになるのかイメージできない。コアマモが流出しないか懸念している。

【事務局】

- ◆ 施工手順の詳細は未検討であるが、下流拡幅部と中の島で段階的な施工と移植を予定している。流速の影響についても、今後モニタリングしながら、検討する必要があると考えている。

【倉田 委員】

- 剣先川の掘削により塩分遡上が増えるのではないかと思う。塩分の遡上の状況によってシオグサの量が増えることが予想されるので、剣先川の塩分の予想やモニタリングするなど検討して欲しい。

【事務局】

- ◆ 了承しました。

【道上 会長】

- 次回（第13回）までに指摘への対応を可能な限りお願いしたい。

【事務局】

- ◆ 今回の協議会で提示した資料については、協議会終了後、速やかに出雲河川事務所のウェブサイトで公開する。
- ◆ 次回の協議会については、夏頃を目処に開催予定である。